

説林



明治三十五年を送る

日を餘ますこと三旬を出でずして、明治三拾五年は既に暮れんとす、去年の末相互に多福多幸を祝して迎へし本年は、打ち見たる所、意外にも總べての方面に於て多事なりし年よ。歳の外にも總る痛ましかりし北奥の凍死事件を抑々の發端として、中頃に起りし九洲の、さては近日に終はりし附近の悪疫、何程か人の膽を寒うしたりけん。而して其間曰く海嘯、曰く颶風、曰く噴火、頻々と

して交々臻り、人をして左盼右顧、殆んど寧日なからしめぬ。而も是れ何れも皆天災地變、人力の以て如何とも爲すべからざるもの、悲しむべしといへども、未だ以て恨むる所なきなり。而して彼の所謂女學生墜落問題の提起の如き、等しく社會人心に刺戟を興へたるもの、中、一見大に悲しむべくして又恨むべきに似たり。何となれば一面に於ては幾多純潔なる女學生をして、最も忌むべき冤罪を被らしめ、一面に於ては幾多眞率なる父兄をして危懼の念を抱かしめ、かくて折角勃興の兆を顯はし來りたる女學の進路に向つていさ、か妨害を興へたるを以てなり。然れども、是とも見様によりては、反つて悲しむべからず、恨むべからざるのみならず、女子教育進歩の趨勢として、社會が女子教育に向つての期望を漸く大

にしたるものとして、寧ろ大に祝福せざるべからざるものあるなり。何となれば、所謂女學生の墜落せりといふもの、誠に千萬人中二三に過ぎず。而して此の如きは、何れの年に於ても斷じて之なきを保せず、而も本年に至つて千萬人中二三の墜落生あるの故を以て、即ち囂々として並び起つて之を攻撃す。其攻撃する所以のものは、實に千萬人の悉く純潔ならん事の期望を女學生に囑するに至りたるもの即ち女學生の社會に對する責任の漸く重大となりしと共に、其眞價の漸く社會に認識せらるゝに至りしものとして、宜しく大に祝すべく又賀すべきの至りにあらずとせんや。

其の他吾人の最も希望に堪えざりし母の會の如き、動物虐待防止會の如き、工女保護會の如き、有益なる會合の此處彼處に設立せらるゝ者漸く多く

而して近來又、免役女囚保護會と稱するもの、一部の貴婦人に依りて組織せられんとすといふ。

要するに、明治三十五年は、比較的多事なるが如き年なりしといへども、其精神的道徳的進路に於ては頗る其歩を進めたりといはざるべからず。吾人は今や此年に告別せんとするに當りて、此年の吾人に與へたる之等の祝賀すべき賜物に向つて大に感謝の意を表せざるを得ず。

こゝに明治三十五年を送りて、更に來るべき年の多幸ならんことを祈る。(牧羊)

本邦古代保育法の一斑 (承前)

下村三四吉

さて、また、子どもに名を付けることに就いて、古代には、その母たるものが、つけたといふ一種